

## シリーズ 尻屋埼灯台（第2回）～尻屋埼灯台の建設まで②～

八戸海上保安部

### 【日本の灯台の父】

R. H. ブラントンは、1841年、スコットランドに生まれました。私立学校卒業後は鉄道工事の見習い技師として生活を始め、その後ロンドンに出て鉄道その他工事に助手として従事し、明治元年（1868年）に灯台建設の主席技師として日本に赴任した、幕末から明治初期のお雇い外国人でした。

ブラントンは、任を解かれる明治9年（1876年）までの在任8カ年の間、尻屋埼灯台や金華山灯台（明治9年11月1日初点、宮城県）等の28基の沿岸大型灯台を完成させる大事業を成し遂げました。これら建造物のうち石、煉瓦のものは、100年以上の風雨に耐えて今日でも厳然と立っています。また、灯台を運用するための灯火の保守、機器施設の整備業務も、当初は外国人技術者に頼らなければなりませんでした。ブラントンは、新しくできた灯台にイギリス人の灯台員を住まわせて、日本人に灯台の仕事を覚えさせ、そのための教科書も作るなど、日本人灯台員を養成しました。このように、ブラントンは、当時、技術的に全く未開の我が国において、しかも岬や離島等特別困難な条件下、不慣れな日本人の作業員を使ってこれだけの大事業を成し遂げたことから「日本の灯台の父」と言われています。



### 【尻屋埼灯台を土木学会推奨土木遺産に認定】

土木学会は、「土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与する」ことを目指し、1914年に設立された社団法人であり、人々の暮らしを支えてきた歴史的な土木施設とその役割を私たちの宝物として見つめ直し、後世に伝えることを目的に、日本全国の構造物を中心に近代土木遺産の調査を行い、技術的・デザイン的にすぐれたもの、由来やエピソードが豊富な構造物を「推奨土木遺産」として認定・表彰しています。

尻屋埼灯台は、日本の灯台の父、R. H. ブラントンが手がけた近代灯台建設の始まりを伝える貴重な施設であり、現存する煉瓦造灯塔は国内最大級であることから、その歴史的土木施設としての高い価値に照らして、平成18年11月「土木学会推奨土木遺産」に認定されました。

### 【尻屋埼灯台を近代化産業遺産に認定（経済産業省）】

明治初期、灯台等の建設は西洋諸国からの要求及び殖産興業・海運振興のため、莫大な国費を投入し外国人技師の指導・監督の基、大型船舶の航路に沿って洋式灯台を建設しました。これら洋式灯台の建設は、航海の安全と海運振興に寄与しただけでなく、土木・建築の西洋技術を我が国にもたらし、日本人技師にとって土木・建築等の分野に関する最新技術を学ぶ貴重な機会となり、近代化への大きな役割を果たしました。

このことから、平成21年2月、「安全な船舶航行に貢献し我が国の海運業等を支えた灯台等建設の歩みを物語る近代化産業遺産群」として、明治初期における大型船舶の航路に沿って、九州沿岸や瀬戸内海、太平洋沿岸に整備され、今も船舶の航行安全を見守る尻屋埼灯台等25基と、灯台等建設の歩みを物語る施設4箇所が「近代化産業遺産」に認定されました。

## 生産物等直売所 休業のお知らせ

7月29日（日）営業を予定しておりました東通村生産物等直売所は、都合により休業することといたしました。

なお、バーベキュー用のホタテとイカについては、同日開催される「東通村ふれあい牧場まつり」会場にて、数量限定で販売いたしますので、ご利用ください。